

# 市民協働事業 相互評価シート

## 1 市民協働事業の概要

事業名称	平成 30 年度「大規模団地における大学生による地域支援活動事業」委託	
事業の実施者	団体等	NPO 法人オールさこんやま
	行政	横浜市旭区役所区政推進課
事業の目的	地域活動の担い手不足解消と地域コミュニティ活性化のため、横浜国立大学の大学生又は大学院生が左近山団地に居住しながら地域活動に参加をするために必要な取組を行う。	
事業の内容	(1) 入居学生の募集・管理 (2) 居室の賃貸借 (3) 電動バイクの管理 (4) 入居学生が行う地域活動の支援 (5) 連絡会・検討会等への出席・協力	
役割及び責任分担等	別紙資料参照	
実施期間	平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで	

記入日	平成 31 年 4 月 15 日
記入者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体等名： 特定非営利活動法人オールさこんやま</li> <li>・記入責任者 理事長 氏名： 林 重克 連絡先： 045-744-6585</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部署名： 横浜市旭区役所区政推進課</li> <li>・記入責任者 大規模団地再生担当 氏名： 馬立、中島 連絡先： 045-954-6027</li> </ul>

事業項目	受託者の役割	委託者の役割
大学生の募集・管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・募集チラシ等の作成協力、周知</li> <li>・入居申込書の受付</li> <li>・申込状況の情報共有</li> <li>・大学生等との連絡調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・募集要項及び募集チラシ等の作成、周知</li> </ul>
大学生が行う地域活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生用活動メニューの作成に協力</li> <li>・大学生の活動上の事故等に対する補償のための保険加入</li> <li>・大学生の活動計画への助言</li> <li>・定例会の開催</li> <li>・大学生の地域活動の支援</li> <li>・大学生の活動報告への承認</li> <li>・大学生の活動状況の区への報告</li> <li>・大学生に対し、地域活動補助金を支給する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定例会に参加</li> <li>・大学生の地域活動の支援</li> </ul>
居室の賃貸借	<ul style="list-style-type: none"> <li>・賃貸借契約締結（URと受託者間、及び大学生と受託者間）</li> <li>・URに家賃、敷金・共益費の支払い</li> <li>・大学生から家賃・共益費を毎月徴収</li> <li>・大学生の退去申出書の受付</li> <li>・賃貸借契約の解除手続き、敷金の精算等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・賃貸借契約の内容等の検討</li> </ul>
電動バイクの管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電動バイクの管理</li> <li>・自賠責保険加入。大学生が加入する任意保険の確認</li> <li>・故障時の連絡</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電動バイク事業者との借受方法等の検討</li> </ul>
連絡会・検討会等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡会・検討会等に出席、資料提供協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡会・検討会等を主催</li> </ul>
その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業の総合調整</li> <li>・UR及び大学等との連絡調整</li> <li>・大学生の相談対応</li> </ul>

# 1 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「2 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証をおこないました。

## ◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

### ①事業計画段階

		団体等	行政
1	自分たちが達成すべき大きな目的やミッションについてよく話し合うことができましたか。	A	A
2	お互いの立場や組織の違いを話し合っよく理解することができましたか。	A	A
3	ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合っ決めてことができましたか。	A	A
4	実現のためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合っ役割分担を決めることができましたか。	A	A
5	会計のルール等、お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合っよく理解することができましたか。	A	A
6	事業を始めることや計画中であることを、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	B	B

### ②事業実施段階

		団体等	行政
1	率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	A	A
2	お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。	A	A
3	相手に任せっきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	A	A
4	事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。	A	A
5	必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。	A	A
6	事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。	A	A
7	事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	B	B

### ③ふりかえり段階

		団体等	行政
1	協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合っ共有できたか。	A	A
2	受益者が満足を得られたかどうかについて、話し合っ確認することができたか。	A	A
3	これまでを振り返って、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認する事ができたか。	A	A
4	期待された事業成果を得られることができたか。	A	A

### 3 事業評価相互検証シート

事業実施プロセス相互チェックシートでおこなった結果をもとに、相互で本検証シートを作成しました。

<b>事業の計画づくり</b> (協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
<b>【共有できたこと】</b> ○応募した学生が4名とも建築学科の学生だったため、活動内容を、「まちづくりに繋がるイベントの企画・実施」に企画変更することができた。 ○月に2回開催したミーティングが非常に効果的だった。
<b>【課題】</b> ○地域の団体ごとのイベントスケジュールを整理して学生に提供することが難しいことが分かった。 ○学生の学業が忙しく日程調整が難しかった。
<b>事業実施</b> (協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
<b>【共有できたこと】</b> ○情報共有の場を作ることができた ・NPO、学生、区で実施するミーティングが定着した。UR 都市機構や大学教授、研究室の学生も参加し、活動に対する議論が深まった。 ・学生の活動状況、近況の把握、地域活動への参加の機会提供などの事業の進捗状況の管理や日常生活相談等に応じる仕組みができた ○学生募集のPR方法について ・4月から実施した1名の追加募集に応募は無かったが、11月から次年度に向けて行った募集に、5名の応募があった。季節ごとの効果的な募集方法があることが分かった。
<b>【今後改善が必要と思われること】</b> ○学生の地域活動への参加 ・コミュニティカフェの活動を必須としなかったため、学生と地域の交流機会が減ったという意見があり、今後改善が必要である。 ○スケジュール管理について ・学生、活動時間の管理を定期的にできない部分があったため、今後工夫が必要である。
<b>事業の成果</b> (協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。)
○学生4人が地域活動に参加 ・学生が日常の暮らしを楽しみ、無事卒業を迎えた。住民とふれあい、地域活動に参加したことにより、地域活動の活性化の機運が醸成された。学生に対する地域の期待の高まりを感じるようになった。 ・今年度は参加学生が若者の視点で新たな地域の魅力となるようなイベントを企画・実施した。地域住民の参加も得られ、この目標は達成された。  ○地域活動の平成30年度取組と令和元年度企画の報告 ・3月23日に活動報告会を実施(参加者:約50人)。学生のこれからの活動予定について、地域から期待感が示された。
<b>自由記入欄</b>
○コミュニティカフェが地域の居場所となっているので、今後も子ども、学生、高齢者など、多世代をつなぐ場所として機能していけるような取組の継続が重要である。 ○地域住民の理解を得るために学生の活動の周知が必要である。 ○地域活動の後継者不足が喫緊の課題であり、学生の活動が呼び水となって新たな担い手の参加が促される取組が必要である。